

岐阜県嚥下障害研究会  
**モグモグ通信**  
 No. 10 (2007. 9 発行)

12月9日の学術講演会に、皆さん、是非ご参加下さいね。お待ちしております！



発行所: 岐阜県嚥下障害研究会  
 事務局: 木沢記念病院 ST室

## 発足10年を迎えて



土岐市立総合病院 ST  
 副会長 加藤 孝憲

岐阜県嚥下障害研究会は、1998年8月30日摂食・嚥下障害に関心を持つ、医療・福祉・教育・保健等の関係職種が、その理論と実際について研修および意見交換をし、摂食・嚥下障害児者のQOLの向上のため、摂食・嚥下機能療法の充実・発展に貢献することを目的として発足し、本年度で10年を迎えます。会員数は8月現在、393名と年々増加し、県外の方も多数入会されています。あらためて摂食・嚥下リハビリテーション（以下、摂食・嚥下リハ）への関心の高さを感じます。職種内訳は、看護師の74名（18.8%）が最も多く、言語聴覚士68名（17.3%）、歯科衛生士53名（13.5%）の順になっており、23職種の方々があります。このような多職種からなる研究会ですので、知識・経験は人それぞれです。ただ、摂食・嚥下障害児者に対して何とかしたいという気持ちは、皆同じだと思います。

当研究会では、学術講演会・初級課程講習会の開催や、ハビリとリハビリの違いから小児・成人の分野に分かれて、勉強会を年にそれぞれ4～5回実施しています。摂食・嚥下リハに関わっていると、単に「食べさせる事」だけでなく、いろいろな領域の知識が必要になってきます。例えば、口腔ケアや口腔機能向上の歯科学領域、呼吸・姿勢・認知発達・コミュニケーションなどのPT的・OT的・ST的アプローチ、栄養管理や食事形態の栄養学的側面、看護や介護的側面などです。もちろん、摂食・嚥下リハでは、チームアプローチが必要不可欠です。各職種がその職種性を発揮してこそ成り立ちます。しかし、自己の領域だけを知っていれば良いのではなく、知識の共有が重要と

考えます。それゆえの研究会です。

我々は、2000年12月に「岐阜県における摂食・嚥下リハの現状調査」（アンケート調査）を実施しました。411施設から回答を頂きましたが、摂食・嚥下リハを行っている施設は101施設（24.6%）でした。そして、訓練を実施していても、検査・評価ができない、訓練手技がわからない、誤嚥が心配などの声が多く、訓練に不安を抱えている方が多数いらっしゃいました。研究会の活動がそのような方々の不安の解消に少しでもお役に立てればと思います。

さて、当研究会も10周年を迎えますが、過去には、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会の理事・評議員の諸先生方に御講演して頂く事が多く、金子芳洋先生・才藤栄一先生・植田耕一郎先生・山田好秋先生・岡田澄子先生・金谷節子先生・田中靖代先生・津田豪太先生・馬場尊先生方を御迎え致しました。また、書籍「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」（藤島一郎・柴本勇 監修）の「学会・研究会・勉強会」の中で、当研究会名も掲載していただいております。知名度も上がったように思われます。今年度は、同学会の理事もされている 昭和大学 歯学部 口腔衛生学教室 教授 向井 美恵 先生をお招きし、「食支援を考える～小児期・成人期・老年期を通して～」と題し、小児の摂食・嚥下機能獲得や高齢者の介護予防の口腔機能向上などの内容を含めて、お話しして頂く予定です。多数の方々にご参加下さいますようお願い申し上げます。最後に、摂食・嚥下障害児者の方々にとって「口から食べる事」は、たとえ一口でも大きな喜びであり、それは我々にとっても大きな喜びでもあります。今後も会員の皆様と共に研鑽していきたく思いますので、宜しく御願い申し上げます。



画像を繰り返り凝視しましたが正直なにが骨

## 画像診断に触れてみて

下呂温泉病院 言語聴覚士 市原 邦夫

今回、木沢記念病院で6月23日に開催された成人勉強会に参加させていただきました。勉強会のテーマは嚥下食のほか、脳CT・MRI、胸部X線の読み方といった内容で、日頃忙しさにかまけて触れることの少なかった放射線診断の分野であったため大変興味を持って臨ませていただきました。

実際にCTやMRIの画像を見せていただくと学生時代に戻ったようで懐かしさをおぼえましたが、聞いているうちに視床ってどこだっけ？内包ってなんだっけ？と不確かな記憶ばかりが呼び起こされてきました。内容を理解するどころか基本的な知識の不足にあらためて気付かされ、読めるといいなあなどと考えていた自分がとても恥ずかしく思われました。また胸部X線画像では肺野のほか骨や心臓、軟部組織などの読影方法をご説明いただき、いつもは描写されていることすら気付いていないということにひたすら驚いていました。その後の



やら気管支やらで、全くもって何も見えてきませんでした…。そんなこんなで、やっぱり無理だな、読影は医師に任せようという思いを胸に自分の病院に戻っていったのですが、不思議なことに電子カルテに脳や胸の画像が載っているとついそこをクリックしている自分がいました。果たして読めるようになったのか…いいえ全く、見えていなかったものは…やっぱり見えてきません。ただ画像をみようとする事は増えたみたいです。自分では読めませんが医師の意見を聞く機会も自然と増えてきました。学んだことは全くもって身に付いてはいませんが意識という面で大きな変化があったようです（身に付くかどうかはこれからの自分次第…）。STという仕事をしていくうえで自らの意識を高める、そんな一助に今回の勉強会はなった気がします。ありがとうございました。

（6月23日 参加者101名。演題・講師：「脳局在機能の基礎知識、脳CT、MRIの読み方」を加藤貴之氏（木沢記念病院 脳神経外科医 写真左）、「胸部X線の基本的な読み方」を西堀弘記氏（木沢記念病院 放射線科専門医 写真中央）、「基礎的な嚥下食」を伊藤仁美氏（高木医院 管理栄養士 写真右）

## 第2回成人勉強会に参加して

白川病院 歯科衛生士 藤井重子

7月28日、朝日大学で行われた玄先生の「さまざまな障害への口腔ケア・口腔機能訓練」の講義には暑い日にもかかわらず多くの受講者が集まり、一緒に勉強させていただきました。特に舌や顔面の解剖標本のスライドはたいへん貴重なものでとても参考になりました。

日頃、いろいろな場所で口腔ケアに取り組んでい



ますが、舌へのアプローチがかなり有効であることが実感できました。舌とつながっている喉頭蓋・喉頭蓋谷のスライドを見て納得しました。やはりまだまだ神経・筋・味覚・唾液などより詳しく知る必要があることを痛感いたしました。

口腔ケアの偉大さは、きれいになるだけではなく、機能向上、そして唾液を引き出し、唾液を嚥下できる口が維持できる、行っても日々凄さを感じて

います。

いろいろな方面に詳しい玄先生のお話はあっという間に終わってしまい、また是非詳しいお話が聞きたい機会があると嬉しいです。

また私たち歯科衛生士も、施設・病棟での職員への勉強会、困難者へのケアなど講師を派遣することができます。お困りの方はご相談ください。

いろいろな職種が集まるこの会です。それぞれの専門性を合わせ、他職種協働でより良いケアができ、

最後までお口から安全に食べていただくことができるといいですね。今後もいろいろな勉強会を楽しみにしています。そして、一歩ずつ前に進んでいきたいです。

(7月28日 参加者70名。演題・講師：「さまざまな障害への口腔ケア・口腔機能訓練」玄景華氏  
(朝日大学歯学部 准教授 岐阜県嚙下障害研究会 副会長)



## 生活の質を高めるために！

東濃特別支援学校 教諭 三好 孝昇  
VTRの中で染谷先生が落ち着いた声で対象のお子さんに話しかけながら、ゆっくり優しく身体をほぐしてみえました。「動かしやすいところからスタート。首の固さは頑固で、伸ばしてあげたいけど、まずは緊張をとろう。」という言葉に、障害の状態は違いますが自分の担任している生徒の姿が浮かびました。徐々に手、肩、首と触っていても、つい欲張ってしまい、ゆるんでいたのにまた始めから、ということがよくあります。本人の気持ちに寄り添うことの大切さを痛感しつつ、この中でお互いを知っていくのだと、やりとりを繰り返しています。夏の直前、もうすぐ水泳の授業も始まるよという時期だったので、水泳活動についても興味をもって聞かせていただきました。何ととっても、医療的ケアの必要



な子ども達とイルカとの交流、砂浜やホテルでの子ども達の生活を支援する、取り巻く仲間の輪に感動でした。とても感動的で、VTRに見入ってしまいましたが、この活動をできるようにしたものはやはり定期的に行われているプールでの水泳活動であり、それを可能にしている毎日の健康管理。それらが子ども達の生活の質を高めることに大きな役割を果たしているのだと思いました。目の前にいる生徒にどれだけ充実した1日を提供できているだろう。こう考えると反省ばかりで落ち込んでしまいます。心地いい、嬉しい、楽しいという思いを存分に経験してほしい。気持ちを表出して仲間と気持ちを共有し、人との関わりを心地よいものと感じてほしい。この思いを自分の根っこにしっかりと持って、学校からできる活動ということも考えつつ取り組んでいきたいと思います。気持ちだけではやっていけないので、また研修会に参加し、勉強させていただきます。よろしくをお願いします。

(6月16日 参加者120名。演題・講師：「重度脳性麻痺児者の呼吸機能へのアプローチ、生活支援」(講義、実技演習)染谷淳司氏(東京小児療育病院 理学療法士)



## 第10回 摂食・嚥下リハビリテーション講習会 初級課程レポート

### 安全に食べるために

老人保健施設 中部台ケアセンター  
管理栄養士 渡辺 真実子

8月12日(日)「第10回摂食・嚥下リハビリテーション初級課程講習会」に参加しました。土岐市立総合病院の加藤先生、木沢記念病院の豊島先生による摂食・嚥下についての講義の後、朝日大学付属病院の川口先生に、歯ブラシを使って口腔ケアの講義をいただきました。

世間はお盆休みに入り、テレビ・ラジオでは帰省ラッシュの情報を伝えています。朝から真夏の太陽が照りつける中、会場に入るとびっしり並んだ机と椅子。そこに次々と参加者が集まり遠くは、静岡県からの参加もあり、職種も歯科医師・看護師・介護師・保育士・歯科衛生士・栄養士など様々なことに驚きました。

私が勤務しております施設にも低栄養の方、咀嚼・嚥下が困難になり、ゼリー食を検討せざるを得ない方がいらっしゃいます。しかし、STがいないため、私たち栄養士に介護職員から摂食や嚥下の状態を相談されることが多々あり、看護師・OTなどと協議し文献を繰りながらの手探りの毎日を送っておりますので、加藤先生からの、介護に携わる職員が摂食・嚥下の流れを知ることが「脱水、低栄養、誤嚥性肺炎からご利用者を守る第一歩である」とのお話に身の引き締まる思いがしました。

午後からの豊島先生の講義では、かっぱえびせんが配られ、唇を開いたままで噛みました。そこで食品は、唾液と混ぜなくては飲み込むことが困難であり嚥下に障害を持つ方に「きざみ食」を提供することのリスクを知り、すぐに業務にいかすことのできる講義は少し臉が重くなる時間帯であったにも関わらず先生のお話に引き込まれました。

今回、あらためて「口から食べる」ことの大切さを感じると共に嚥下障害へのアプローチにチーム

ケアが大切であることを認識しました。今までは「口腔ケアは介護師の仕事」と決めつけていたのですが、今後はご利用者の口の中にも気づきを持てるような栄養士でありたいと思います。



(8月12日 参加者98名。講師：加藤孝憲氏(土岐市立総合病院 言語聴覚士)、川口千治氏(朝日大学付属病院 歯科衛生士)、豊島義哉氏(木沢記念病院 言語聴覚士)

### 第10回 学術講演会・総会

日時：平成19年12月9日(日)9時～16時

場所：セラミックパークMINO(多治見市東町)

内容：午前 特別講演「食支援を考える

～小児期・成人期・老年期を通して」

講師：向井美恵氏

(昭和大学歯学部口腔衛生学教室 教授)

昼時 嚥下障害補助食品&口腔ケア用品の展示

嚥下障害関連書籍類の販売

「歯科衛生士による口腔ケア体験」-ナ-開設

午後 調査報告「岐阜県における摂食嚥下障害

リハの動向 ～アンケート調査結果から」

教育講演「摂食嚥下リハビリテーション

の実際 ～嚥下リハビリの進め方と使える

訓練法～」

(岐阜県嚥下障害研究会 豊島義哉会長)

参加費：会員 2,000円 非会員 3,000円

編集後記：今回、田本氏に代わり、木沢記念病院言

語室が編集させて頂きました。イヤイヤ、難しい

のひと言です。